

## 平成28年度第2回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会議 議事録

日 時 平成28年10月19日(水) 18時30分～20時  
場 所 湯梨浜町中央公民館泊分館 2階研修室  
出席者 朝日田 卓朗、石沼 友、岩本 馨、山田 志伸、鷺野 星夫、田嶋 昭彦、  
遠藤 公章、渡邊 由佳、中原 政喜、石井 美佳代  
オブザーバー 泊1区長 小泉一義、泊2区長 岩本和雄、泊3区長 松田宗春  
泊4区長 米村敏男、泊5区長 中尾輝夫、泊6区長 石原清弘  
県中部総合事務所地域振興局 栃本リーダー、久保田係長  
地域おこし協力隊 辺美礼  
事務局 山根孝幸副町長、岩崎正一郎みらい創造室長、谷岡雅也主事

### 1. 開会

皆さんこんばんは。本日は10名の委員さんの方で議論をいただければと思います。それと本日は区長さん方の方も、オブザーバーという形でお越しいただいております。それでは最初に会長の方からご挨拶をいただきたいと思います。

### 2. 会長あいさつ

皆さんこんばんは。前回の協議会の後に皆さんからのご意見がたくさんでております。これをまた踏まえてですね、次のステップへと移っていきたいと思っておりますけれども。今日は区長さん方ご参加いただきましてありがとうございます。できれば、今日も一緒にいろんな意見を交換させていただければというよりは、一緒に話に入ってもらいたいなと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

### 3. 泊地域の特徴について

(会長)

ざっくばらんに話をしていけたらなと、あまり固くならない会議になればなと思っておりますので。特にですね旧泊1区から6区の中では、実際にそこにお住まいになって、現場をよく知ってらっしゃる区長さん方ですので、もし途中でなにかご意見あったらぜひよろしくお願ひしたいと思っておりますので。それでは、できるだけリラックスした形で進めていけたらなと思っておりますので。レジメでいきますと3の泊地域の特徴(良い点、問題点、資源等)についてということで、資料がありますけれども、皆さん方見られて自分が書いたものはこのあたりが、分類分けが自分の思ったところと別のところになっているとか。もしあるようだったら、何かご意見いただけたらと思うんですけども、どうでしょうか。役場の方で一応まとめて集計していただいているので、ちょっと書いた方のニュアンスとちょっと違うとか、思いが違うところに入ってしまったんじゃないかということはあるかもしれないので、もし

そこらあたりがあれば、ちょっとご意見いただけたらなと思います。

(委員)

例えばですけど、「人、地域」というところで、「人がいい」とか「人情が厚い」とか「しがらみに弱い」とかというのは、必ずしも泊だけではないのかなと思うんですよ。泊に限定した特色という部分で考えると、「自然」では筒地の隣地区のビワのことですかね、ですとか「環境」でいうと泊港がある、栽培漁業センターがある、グラウンド・ゴルフ発祥の地、「イベント」だと泊夏祭り、ゆりはま大漁まつり、「伝統芸能」だと泊貝がら節、大名行列とかとまり漬、料理自慢だとかが、泊に本当に限定とかオンリーワンになるのかなと思うので、そういうところって拾っていったらどうか。というふうに感じました。

(会長)

泊地区に限らない部分もなかにはあるんじゃないかということですね。その他なにかありませんか。

(委員)

とりあえず皆が出したということで、いろんな意見があっていいのかな。

(会長)

おおむね皆さんが出された意見で、それなりのところに反映されているということで、よろしいでしょうか。その他、出された後にですね、こんなこともあったかなというところがあれば追加で今でも言っていたらいいので、なにかありましたら。

(委員)

ほかの委員さんの意見をみると、自分でも気づかなかったところというのが結構あるんだなということを感じたので。

(会長)

区長さん方から、今渡した資料でなかなか全部目を通してないかもしれませんが何かお気づきのこととかありますか。

(区長)

「環境」のところ、田畑があるのはいいことなんですけど、宅地がないんですね泊の場合は。場所がない。あったとしても道が狭いから入れない。それで、羽合の方に集中してしまうと、羽合地域の方でどんどん建っております。泊は宅地がなんとか確保できたら。それこそ浜山みたいに宅地があれば、若い人とかも定住される方も来られるんじゃないかなと思います。宅地をなんとか確保するような。そういう案があれば。

(会長)

2Pのとことかあります。やっぱり住宅が密集していて建替えができてくいと今の旧泊地区。やっぱり前回の意見でも、泊で育った人で外に住んでいる方は帰りたいと思った時になかなか宅地がないという現状があるので、今区長さんが言われたように、浜山団地みたいに、また新しい分譲地があれば、確かにニーズとしてはあるような気が。僕自身も相談を受けたことがあるので、それはやっぱりあると思います。

(委員)

この資料を見ていて、いいところと悪いところとで悪いところの方が2ページあって、いいところが1ページということで、問題点が多いということ。

(会長)

逆に言ったら、問題点があるので、ずっと（人口が）減っていつている。改善されないから。ということかもしれません。そのサイクルをどこかで変えていかないといけないのではないかと。これが今回我々の使命で、今回もう一回確認しますけど小さな拠点の私たちがやらなくてはいけないというのが、人口を増やすにはどうすればいいか、さっき言った住宅を供給するとかを含めて、もう一つはこれから僕たちも含めてこの地域に住んでいくなかで、当然歳をとっていきます。そうした時に、このままでいいのか、もっと暮らしやすく生活しやすい形というのがあるんじゃないかということをお探りしていかなくてはいけません。当然その中には、区長さん方、一番身近で各区の独居の老人の方とかも直接触れ合っておられると思うので、そのあたりの意見を特に現状も含めて言っていただければと思うんですけど、区長さん方から例えば自分の地区のところに独居老人がどのくらいおられて、どんなことが困ってられるかということはあると思いますか。

(区長)

やはり店がない。杖をついてでも、そこに行って買い物しなくてはだめだとか、お年寄りには困ってらっしゃるんじゃないかと思います。

(区長)

湯梨浜町全域が地域包括ケアシステムに組み込まれている。それは役場の方が社協とか民間と一緒に医療保険の整備、自力で支えあって安心、安全に生活できるムラづくり、地域づくり、それを今役場が進めている。助け合いとか買い物とか移動でいろんなシステムができる。そういう課題を小さな拠点と同時にCCRCでも問題点というか方向性として、地域包括ケアシステムが入ってくる。それらがどうやって進んでいくか関心を持っている。

(会長)

独居の老人となると、やっぱり自分で動ける間というのは、例えば今の住まいを移って子どものところに行くとかということはいらないということが正直なところなんじゃないでしょうか。生活環境が変わるということをお避けたいのか。

(委員)

人にもよるでしょうけど、住み慣れたところを離れたくないという。やっぱり住み慣れたところを出たくない。他地区に家を建てた人でも、親御さんはこちらに残って、結局若い方が他地区に家を建てて。それで、独居状態になる。

(会長)

同じように他地区に出てしまって、独居になっている。というのを何軒か（知っている）。

(委員)

しょっちゅう寄っては来られるみたいですけど。

(会長)

今、独居の方って何か定期的に役場とか社協とか見まわってあげるというシステムってな

にかあるんですかね。

(委員)

独居は、愛の輪協力員さんていうのがあって、近所とか親戚の方を見守る。あとは地区の民生委員さん。あとは、福祉推進員さんが熱心なところは見守られるということがあります。

(会長)

幸いというか、孤独死というんですかね、あまり聞いたことないので泊は。

(会長)

問題点とか他には。

(委員)

お年寄りの方に「どういうことがあればいいですか」とかアンケートを取るといのはどうでしょうか。

(会長)

なかなか紙を送ってというわけにはいかないでしょうけど、お年寄りは聞き取りをしてあげなくてはならない。たしかに買い物するところがないというのは。

(委員)

一番困ってらっしゃるのは、商店が少ないということだと思うんです。どうしてこんなに商店が減ったのかというのは、人口が減少していることもありますが、僕が思うことには平成15年に羽合青谷道路が開通して、これで国道の交通量が、半分よりは下がらないだろうというのが当初の予測だった。ところが、6割、7割が上の道を通ってしまって、それで減少してまず国道沿いの店が撤退したり、ガソリンスタンドが3軒あったがなくなったりしました。これが平成15年。それで平成16年には、湯梨浜町に合併して役場の機能が無くなったり、役場の機能が無くなるということは、役場に80人なり100人の職員さんも泊地区に来ていたし、あるいは役場に来られるお客さんも泊地区に来ておられた、その分が他地区に行かれて、泊地区に流入する人口がガタッと減ったという背景もありますし、それをなんとかしないといけない商工会も平成18年に合併して泊だけのことを考えられるようにならなくなってしまったということも大きな原因だと僕は感じていて、平成15年時点の泊村商工会員数が76軒あったが、今拾ってみたんですけど、今も商売を続けておられるのは37軒、半分以上に下がっています。その中で4、5軒は商工会を辞められて細々と商売されておられるという現状です。それで、「これではいけないぞ」ということで、社協さんも乗合バスということで今泊地域とか全町なんですけど、東郷地域とか一人暮らし二人暮らしの高齢者さんをバスに乗せて羽合地域に移送するサービスをされています。ただ、それはあまり利用客が思うほどないというのは、なぜかなと考えるとやはり、買い物というのは、例えばスーパーに行きたい人はスーパーで30分、1時間過ごしたいだろうし、今のルートは多分スーパーにも行くし、ホームセンターにも行くし役場にも行くし。という感じではないでしょうかね。

(委員)

乗合バス自体が、それができない。法的に。出発点から到着点まで、そこを経由してどこ

かに行くということができないので、制度上。それで利用が少ないのもそのあたりが(原因)。例えば、スーパーで買い物してホームセンターで買い物して帰ってくるということが認められていないので。乗合バス自体に。

(委員)

それで、少ない。利用者が泊で10人台とか。

(委員)

泊10人で東郷で18人で、全体で28人なんで。泊、羽合が月2回、東郷が月3回。

(委員)

ただ少ないとはいえ、やっぱりそれを利用されるお客さんというのは、自分で歩けるお客さんで、その自分で歩けるお客さんというのは、今ある泊の商店の上得意さんなんですよ。これをするによってさらに、今ある商店にも影響があります。石脇は昔、区で運営される石脇生協というお店があったんですが、5、6年前、もう少し前ですかね、やめられて石脇にはお店がなくなりました。でも、ある方がこれではいけないということで、食料品と日用品の小さな店を開かれて、結構いい品揃えをされていたんですけど、やはり石脇地区の120世帯くらいのところでは商売として成り立たなくて、それも廃業されて。何が言いたいかというと、合併した後、人口が減るのは仕方ないですけど、泊地域内に昼間流入する人口とか交流人口とかが今見込めなくなってしまって、新たに商売を始められる方もなかなかないんじゃないかなと、それが一番の商売をする上での現状だと僕は認識しています。

(遠藤会長)

たしかにインターチェンジを降りたところに、去年か今年にコンビニが来るということでもリサーチをされたようですが、採算が合わないということで話が進まなかったということがあるみたいなので、どうしても地元の数も少ないし交流人口が少ないということが商売をやる上ではハードルが高いということになってしまっていますよね。とりあえず現状としては、今そういう現状をA委員さんの方から、ここ10年、15年あまりの経過でいい具合にまとめていただいたんですけど、何か気になること、もう少しきっかけなどになりそうなことはありますか。区長さんが言われたように、浜山団地ができた時は、あっという間に完売になってしまって、一時子どもの数も増えてにぎやかになったんですけど、そのあと住宅供給がないというのは。一回、泊小学校のまわりで住宅の計画があったんですよ、頓挫してしまいましたけど。

(区長)

交通の便が悪いですね。泊小学校の周りだと交通の便が悪い、浜山はいいけれども。泊は立地条件がだいぶ悪いんじゃないですかね。

(会長)

人口を増やしたいと言いながら、増えてもらえる要素がなかなかないというのは、どうやって来てもらうか。ということが一番大きいかもしれませんね。特に車なども最低2台はいるような環境になっているので、そのスペースも含めてということになれば、それなりの宅地が必要になってきますし。

#### 4. 泊地域の特徴をふまえた、今後の方向性について

(遠藤会長)

現状、どちらかというとマイナスの部分が出てきていますけども、プラスの部分もあります。先ほどB委員さんからも泊に特化したところもみながらというところですね。次の議題の方に移っていった泊地域の特徴をふまえて、今後の方向性についてということで、これから、さっき言われたように、ここに住んでいる人が何を不便に感じているかとか、もっとどっと出してもらって、どうしたら良いかとか。この2つの目標をですね、どうすれば人口増やせる、これからもお年寄りがこの地域で暮らしていけるというところですね、そうやって持っていか。何をしたらいいかというところを、これをざっくばらんに話しながら、実現不可能であると思われることでも、皆さん話を出してみてください、楽しい明るい話にしていきたいと思うんですけど。夢のある話をしていかないといけないので。最近、何人かUターン、それからIターンの方と仕事をしたことがあるんですけど、「古民家で農家を一緒にしてみたい。」とか、「まちカフェとかをおうちでしてみたい。」とか、ある程度おそらく金銭的にも余裕がある方だと思うんですけど、40代50代とか、そういった方が田舎暮らしというのを求めておられるという状況は結構あるみたいでして、田舎暮らしというのはどうしてもあったりして、いろんな本に取り上げてもらうと、それなりに効果があるみたいなことも出てますけども。まず人口を増やすということに絞っていった時に、さっき住宅の供給がありましたけど、その他ご意見がございましたら。

(委員)

仕事ですよ。仕事があれば住めるんでしょうけど、仕事が無ければ住めないという。これが一番ベースにあるような気がするんですけど。

(委員)

3Pの資源のところには山陰道のインターでインター近くに団地が造られることが多いということを見て納得したんですけど、私は土地のこととかよくわからないんですけど、町営住宅とか県営住宅とか建てられないんですか。インターで原方面（倉吉方面）にも行けるし羽合方面、鳥取方面、米子方面にも行きやすいと思うので、これがなんとなく答えのような気がするんですが。

(会長)

住宅ですね。住宅用地以外に住宅そのもの。町営住宅とか。たしか浜山団地の町営住宅って空いたら、結構埋まるのが早いとか空きっぱなしということはそんなにないので、それなりに意味があるような気がしますけどね。車もしっかり2台は置けますし。

(委員)

独居老人の人とかが安心して暮らせるアパートみたいに、ちょっと条件を付けたりしたら、孤独死ではないけど。社会福祉のことはよくわからないんですけど。自由なアパートみたいな（サービス付き高齢者向け住宅）。いろいろ細分化されているみたいでわからないんですけど、元気で勝手にできつつ、様子見もありつつみたいなものがあれば、例えば今ある農地・

家は誰かに譲って、自分はそこでいいわ、という人がいたら空き家は誰かを受け入れるみたいな、そういうこともありなのではないかと。

(会長)

高齢者向けの集合住宅。

(委員)

買い物難民もそこに生協みたいに、誰かトラック（移動販売）で行って買い物もできるし乗合バスもまとめて行きやすいのではないかなと思ったり。あと農業も、農業大学の京都、関西の人とか、実際に農地を探しておられる方が多くて、（移住希望者の）8割くらい。やはりこだわりを持ったり、脱サラしたり、子どもが生まれた機会と奥さんが実家だけ一緒に住まないしという人で探したい人。漁業もあると思うんですけど、そこで受け入れますよというようなことがあると、結構そういう人たちが来ると思うんです。もったいないなと思うんです。

(会長)

C委員さんが言われた仕事という部分にも関係してくる部分ですよね。仕事の部分でいうと必ずしも泊に職場がないといけないかという、そんなことはないと思うんですけど。

(委員)

(田畑を) 探しておられる方もたくさんおられるし、自分がムラを見ていて作っていない田畑もいっぱい、土地の関係も所有者の関係でよくわからないんですけど、実際に草ぼうぼうの土地をよく見るので、そういうところも貸しますよというところがあったら、すぐ住みかがあれば、来れる状態の方がおられます。

(会長)

地域に新しく住んでもらおうと考えた時に、いろんなパターンの方がいらっしゃる。本当に都会からサラリーマン生活をやめて、こっちで自給自足みたいな生活をしたいという人とか。もしくは、この近辺には例えば倉吉とかにいるけれども、出身が泊で帰りたいけど、仕事もあるし、仕事を持っているけど泊に住むには土地がないとかいろんな何種類かあると思うんです。それぞれのニーズとかここに住んでもらうためのニーズとか条件が違うものを整理しておかないといけないかなと思う。

(委員)

役場の方に聞きたいんですけど、僕が最初に来た時には受け入れが「田舎暮らし体験」という県の事業だったんです。最初から漁業が目的は目的なんですけど事業としては田舎暮らし体験をして、そのあとに漁業をした。今でいう田舎暮らし体験というものはされているのでしょうか。

(事務局)

県の政策は、継続してありますね。形態が少し違いますけど、例えば1年間雇う親方の方に助成を出したりとか、研修費が出たりとか、農業部門もありますんで、あることはありますが、対象は農業、漁業ですね。農業などは例えば3年間ということがありますので、例えば湯梨浜町でなくても例えば倉吉市でやられた方が1年で出られて、2年目は湯梨浜町で。

実際には倉吉市ではなかったですけど、そういう方もいらっしゃいました。それを通算で3年間ということであります。

(委員)

たぶん、この制度を知らないというか、あまりアピールしきれていない。全国的には。

(会長)

D委員さんは、田舎暮らしの体験から入ってこられた。最初に住んだのはどこだったんですか。

(委員)

最初に住んだのは、地元漁師さんの家。

(会長)

それが、たまたま泊だったので、そのまま泊。

(委員)

そうですね。最初漁業やると決まった応募した年が、その年が泊だった。一年ずれていればよそのところだった。

(会長)

逆にそういうところを泊で一生懸命打ち出して行って、泊を対象とする田舎暮らしの体制を作ってみるとか。

(委員)

田舎暮らしで月いくらもらえて、お試し期間がありますよということを、もっとみんなに知ってもらってね、それを使うのであればぜひ泊に来てもらう。

(会長)

この前の会の後、ちょうどニュースで特集やってたんですが、東京のあるところで、民間の空き家を行政が、譲り受けたか買ったかはわかりませんが、ちょっとリフォームして、月に5000円くらいで安く貸してあげて、それを15年住まれたら無償であげますよというようなことをやっているところがあって、たしかに無償であれば貰うのであれば住んでみよかな、わざわざ買ってまでというとなかなか難しいかもしれませんが、行政としては、住んでもらったり子どもが増えたりすることによって税金が上がっていったり何かしら人が増えることで地域の活性化とか経済がまわっていくという部分でいったら、最初の投資的な部分で空き家をうまく利用して、できればなと思っているんですけど。

(委員)

たぶん全国的に同じような制度はあるとは思う。

(会長)

空き家もいろいろな段階があって、きれいな空き家からもう壊れそうなところまであるんですけど、泊の中でも泊地区でも他の地区でも、都会に兄弟とか相続人がみんな出てしまっただけで帰れないから引き取ってくれないかという声がある。買ってではなくて、引き取ってくれないか、町が引き取ってくれないかという人もいるぐらいなんですけど。そういったものが有効に活用できれば、無償でも引き取ってもらった方がいいわ。というようなものを調査し

て、本当にそういうものがあれば、アピールしていけば何かしらそれに乗っかってきてという人もあるかもしれないなと思ったりするんですけど。

(委員)

やはり、リフォームは必要だなと思います。

(委員)

その空き家ですけどね。僕も「空き家のバンク立ち上げてやりました。」と言ったら実際貸家としてできる家がちょっとしかなかったということにもなりかねないので、空き店舗や空き家がどれぐらいあって、どれぐらいが貸家として提供できるのかということ調べてからじゃないと、大掛かりな取り組みはできないのかなと思いますね。

(会長)

今町の方で、そのあたりを調べていただいているんですよ。

(事務局)

今年に入りましてから、9月いっぱい現地の方は、コンサルに出して、調査してですね、4段階で壊れそうな家、ある程度もつかな、ちょっと手を加える必要がある、とすぐにでも住めますよ。という大きく分けるとこういった4つの分け方にしてですね、調査を全町にですね、行いました。まだ正式な成果として報告は受けていないんですが、目標としては何とか今月末ぐらいにですね、担当課の方から情報をいただいて、使えそうな空き家についてですね、うちの方で持ち主に対してアンケートという形で、町の方にも空き家情報バンクという制度がありますので、そういったものに登録いただける物件か否か、無償か有償か、中には賃貸したいという希望の方とですね、売ってしまいたいという2種類ございますので、そういったことも含めてですね、アンケートをやってみたいなと思っております。今、泊の方には空き家バンクに登録いただいているのが2物件あります。売りたいという2件が、今あるということです。

(会長)

区長さん方にお聞きしたいんですけど、例えば空き家になっていたりして、その家の人もいないし、ただ何かあれば教えてよというような管理というところまではいかないんですけど、ちょっと気になることがあれば声をしてほしいというようなことは実際あったりしますか。

(区長)

うちの近所なんかは、インターネットに出ているけどなかなか買い手がつかない。やはり買わないでしょうな。空き家でも、そこはいい家ですよ。ちょっと改めて住むとなると車も横付けにはできないし。

(会長)

ここにおられる方はほとんど泊の人だから、泊だったらと思うんですけど、言い方悪いんですけど、他地域でもそういう似たような感じじゃないですか。「空き家があったらそちらに行きたいか？」と言われたら、正直行きたいとは思わない、自分が育った場所だからというのがあるのかなという気がする。

(委員)

松崎地区などに今移住してくる若者が多くて、その人たちはそんなに便利な場所であったり、駐車場があったりする家ではなくて、ただ古民家が好きだったり、あるいは値段がかなり安い、1万円以下で月借りられたりするそういうことがあって、そういう紹介とかPRによってはマッチングする可能性があるんで、ぜひそれは行政にお願いしたいと思いますね。

(会長)

タダでももらってもらえるかという部分があるので、せめてローコストというか安くならないと、なかなか普通の感覚で家賃収入という形だと難しいだろうなと泊地域では。

(会長)

住まない家というのは、段々とリスクになってしまって。痛んでくるし、お金がかかるしというところで大変だと思うんですが、うまく活用できたらと思うんですが。空き家のあたりで何か意見がありましたら。区長さん方の年代って退職される年代になった時に、例えば泊出身の人で都会に出ていて、泊に帰ってきたいという人はあるわけですか。一度出てしまうとそこに馴染んで、そこに拠点を置いてしまうということですか。

(区長)

多いですね。そういう人が。外から帰ってくるという人は少ないですね。

(委員)

まだ家を建てておられなかったら、帰ってきてもらえる可能性もあると思うんですけど、団塊の世代のお子さんたちがちょうど今20代、30代。住宅造成の他に人口を増やすというのは難しく、その貸家を使うか家を建てる造成地を造るか。会社を誘致しても確かに人口は増えるかもしれないんですけど、条件のいい会社だったら、泊以外の人も外の人も来られてしまいますよね。

(会長)

定住にはなかなかつながらないかもしれませんね。

(委員)

全部、1個いい工場が建ったから、会社が来たからといって全部入れるわけじゃないと思いますしね。それだったら造成とかをした方が、今のうちなら帰ってこられる方もいらっしゃるんじゃないかなと思います。

(委員)

E委員さんは、人の流れを作る方がまだいいという。もしかしたら波及的に人が増えるかもしれないという。

(委員)

合併当初はまだ役場の中にも福祉関係の課がありましたし、当初はコミュニティバスというのを走らせて、町内を周遊して泊にも来てもらうようなことがあったんですけど、泊庁舎も今窓口業務だけで2人しかいないですし、コミュニティバスもなくなりました。羽合、東郷の人が泊に来るきっかけというか、必然性がなくなってしまって、泊に昼間来る人が少なくなったというのも、商売が衰退した大きな原因だと思うので、なんとか泊に昼間でも来れ

るような施設、それで小さな拠点もおおいに期待しているんですけど、そういう施設になってくれればいいなと考えています。今泊は社協の本部がありますし、あと潮風の丘が人を呼べる施設なんですけど、潮風の丘はご存じのとおりレストランが今休業してまして、お金が落ちないようになっていて、ますます泊に呼べる施設がなくなってきているので、さらに心配はしているところです。

(委員)

かなり的人数が公園にはきている。

(委員)

5万人くらい入園者は1年間きている。

(委員)

来て帰るだけ。途中でよって帰るということがないので。

(会長)

たしかに寄るところがないといえば、ない。

(委員)

かなりの方が年間通ってきている。

(会長)

ランドマーク的ななにか。ショッピングモールではないけど、なにか人が来るようなものが。

(委員)

毎年、夏祭りの花火大会になるとすごい人が来ていて、すごいこんなに泊に人が来るんだと思って、やはり魅力あるそういうイベントがあれば人が集まるでしょうし、自分が中学生だったと思うんですけど、有名なアーティストが来た時もあった。胸が高鳴るような、夢のあるイベントってすごく良かったなと。

(会長)

そういう人が来たくなるような、仕掛けというかですね。

(委員)

別の観点だけど、人を呼ぶのはいいんだけど、地元にいる人が出てしまうということ。それと全然結婚してない人も多い。ということは子どももいない。それでいずれはそこも家がなくなっていくことになるので。

(会長)

出てしまうというのは、住むところがないということですかね。

(委員)

今空き家になっているということは、泊に魅力がないということで。向こうに仕事があるので、行ってしまっ、帰ってくる魅力もない。ということもあるのではないかな。

(会長)

それと、古くなった家を建て替えようと思った時に、ここで1000万、2000万円使うと考えたら、もっと環境の良い方へ行ってしまおうかなと、なっているんだろう

かな。車が使えないようなところばかりだし。

(委員)

でも、ジョギングやサイクリングやマリンスポーツという資源のところ、良いところがたくさんある。泊ならではの山と農地と。

(区長)

人がいないので歩きやすいと。静かで。

(会長)

例えば、空き家になっているところも、外からIターンの人が入ってくるというのは、正直なところ、区長さん方とか地元のお年寄りからすると歓迎なことなんですかね。

(区長)

60、70歳の人より、40、50歳の人があると活力がでるという感じがすると思います。だんだん高齢化する中で、若い人が来たらその町内は活力が出てこないかなと思う。

(会長)

どこかで、そういう部分が不安かなというのは、地元の人にとったらよそ者が入ってきてということが心配なのかなと。

(委員)

浜山でも、半分以上は旧泊地域にいて若い者が家を建てようと思って、浜山にでた者が多い。

(会長)

ほとんどそうですね。ほとんど泊にゆかりのある人。

(委員)

旧泊に家を建てるんなら、浜山に建てた方がいい。それで今旧泊の方が年寄はいるけど、若い世代は浜山とか羽合の方にいる。

(会長)

泊から出てきている人がほとんどで、本当に純粋に外から来た人というのはわずかです。

(委員)

それは、県営住宅でもね。港団地も同じようなことですね。人口の流出を止めているといえば、そうですけど。外からという感じではない。

(委員)

一里浜線の下水処理場のある土地は？

(事務局)

下水の横が町有地です。それから宇谷よりは民有地です。

(会長)

浜山団地はもともと民有地ですからね。畑。なにかしら住宅地が供給されればそれなりに定住が見込めるのではないかな。

(委員)

以前コンビニがあったところも団地になりかけていたが、違うんですか。

(会長)

住宅を造成したんですけど、なんか頓挫してしまった。

(会長)

日照の具合とか。

(委員)

でも、道路が近くで便利です。

(会長)

そう思われる方はあるかもしれませんが、(宅地に)なりかけた。売り出しまでっていない。

(委員)

あれは、町の(土地)？

(会長)

民間です。

(委員)

住宅に関連しては、今年の春に過疎計画というのをまとめられた中に、売却できる町営住宅は、順次売却を進めますと書いてあるので、これはおおいに大賛成で、古くなった町営住宅、おおいに売却していただいて、売却した数だけは新しく一戸建ての町営住宅を建てていただければと思うので、ぜひ進めていただければと思います。

(会長)

住んでおられる方は、そんなに高くないでしょうから、欲しいという方がいると思います。だいたい何年くらいをめどとかあるんですか。30年とか。

(事務局)

結局、造り方によって耐用年数が変わってまいりますので、木造はやっぱり早く30年くらいなんですけど、RC関係のものはですね、普通の住宅だとだいたい50年とかあるんですが、公営住宅になると70年と非常に長いんですけども、今町内でもうそろそろ耐用年数がきはじめているのが、東郷の方がもうそろそろです。泊の方はまだ、もうちょっとですけども、もうそろそろくるので担当課の方も早めにですね計画を作って、売るところは売りたいし、整理するところは整理したいと。

(会長)

住宅を供給するとなると、泊に帰りたいという人でしょうね。Iターンとかになると、ちょっと違うかなと、帰ってくるのは農業がしたいとか、ちょっとお金に余裕があって帰ってくる人が結構多いと思うんですけど、今住宅用の宅地というのがあったんですけど、そういう帰ってきて畑もしたいといった時に農協では、農地のレンタルとかリースではないんですけど空き農地を出すというのうなものはあるんでしょうか。

(委員)

補助はあるんですよね。作ってないところをやったら。

(委員)

土地改良区のことですかね。泊は農業委員会。農地バンク。

(委員)

原のあたりは営農組合があると聞いたことがあるんですけど。原の人だけではなくて、いろんなどころの方がおられるんですよ。

(会長)

農地組合でしたっけ。そういうIターンとかJターンの人とかは、そういう $+\alpha$ の魅力がないと。日本全国同じようなことで呼んでいるわけです。

(委員)

さっきの話の続きですけどね。僕は平成11年には都会に出ていたんですけど、その年に風車ができたんです。今となってはするのかわからないですけど、やっぱり新しいものができる、ワクワクするのかなということがあって。空想的だったり、現実離れしているのかもしれませんが、夢のある企画がくれたらいいなと思っていて、自然が豊かという、田舎の自然をこよなく愛している方にとっては逆説的ないい方になってしまうんですけど、オランダなどは土地がなかったのが干拓したり、土地がなければあとは上に登っていただけなので、高層マンションを建てたりとかそういう発想があってもいいのかなと思ったりして、スペインのサクラダファミリアなどは100年間続いている公共事業で、例えばそういう発想を泊の中に入れてたりとか。ブニョールというバレンシアにトマト祭りというトマトを投げる祭りがあるんですけど、9000人しかいない町にそこにお祭りで4万人集まってきたりとかもあるので、色々工夫をすることがあったらどうかなと思った。大分県が以前1村1品運動ってしていたと思うんですけど、まちづくり会社を、小さな拠点ということなので主旨があうかわからないんですけど、まちづくり会社をつくってもう1回、泊の中だけでも1村1品運動をおこしたりとか、6次産業化という形で新商品を開発するところで売り出すような、そういう企画につながったらおもしろいかなと思ったんですけど。

(委員)

時代の流れで、フェスにして、フェスってキャンプみたいなことをするんですけど、立地も条件がいいじゃないですか。マリンスポーツもできるし。フェスというのは、コンサートが夜通しあって、みんなが持ち寄ってくる。それはみんながおしゃれにアウトドアの格好をしてキャンプして、そこで泊まって、潮風の丘って条件OKじゃないですか。近くに家もないので。そういう人たちに海もあるし、今住む人募集中みたいに言ったら、すごく宣伝にはなると思う。

(会長)

イベントをしたり交流人口を増やして、来てもらって泊を見てもらって、住みたいと思ってもらえるようなことですか。

(区長)

潮風の丘はコンサートやったことありましたよね。

(委員)

(フェスをやるには)立地としては湯梨浜町の中では一番適した場所だと思うんですけど。

(会長)

イベント的なものを打って行って、泊というところに人を集めて。

(委員)

一つの手法だと思います。

(会長)

見てもらいながら本当にいいところだなと思ってもらいたいと。

(委員)

それと、児童養護施設とかは施設養育といって子どもを施設で育てるんですけど、里親という社会的養育という養育制度があって、地域の人に里親教育というところで、里親を広めて人口を増やすというような考え方なども、やはり村の中で子どもを育てていくという発想を持ってもおもしろいかなと思ったんですけど。子どもを育てるといっているのはそんな生易しいことではないと思うんですけど。ひとつりタイヤされた方というか。

(委員)

3. その他の上の、シングル限定ではなく子どもをお年寄りの方の活用というわけではないんですけど、そうしたらお母さんたちも過ごしやすいし、お年寄りも元気になれることですかね。

(委員)

お金のこととかわからないんですけど、空き家を活用するとかではなくて新しくファンドをつかって例えばPPPとかPFIとかという形で、そういう形で自分たちでファンドみたいなものをつかって住宅を建てていくというようなことは。

(委員)

ファンドをつくること自体はできるんですけど、される人を見つけてこないと進まないのでもっと手っ取り早いのは、よくあるのはハウスメーカーさんとかが造成を手掛けるので、そういう土地があったら銀行の方から持ちかけてそういったハウスメーカーさんに話をすることがありますけども、ちょっとブローカーのようなこともされますので、地権者と話をつけてくれて、大きな区画をつかってというようなことはありますけど、乗ってくれるか、してくれる方がおられるかどうかですよね。さっきコンビニの話がありましたけど、コンビニというからにはたぶんそういった形の方が入ってやっていたんでしょうけど、うまくいかなかったのかなと思ったんで。僕は地権者とかそちらの方がうまくいかなかったのかなと思っていたんですが詳しい事情はわからないので。話がつけば、開発とかはできるんじゃないかなと思います。

(会長)

この前、突拍子もないことですが、あるTV番組で空きビルを提供してもらえませんか。というのがあって、番組が入ってきて、地域再生します。という企画があって、漁村センター使えばいいなと思っていたんだけど、時間的なことがあったんでしょうけど。そういった外から面白いことをやってもらえるというようなことがあれば一番いいですけどね。な

んかお金をかけてランドマーク的な施設ができるということができれば人が寄ってくるので、よそにないようなものができればいいですけど。

(委員)

良いところに書いたのがちょうど真ん中でインターがあって、鳥取からも米子からもちょうど真ん中で集まりやすい。ひとつそこを利用して何か。

(委員)

地理的な利点というのがありますよね。

(会長)

JRもあるし。

隠岐の島が、移住定住と若干ずれるかもしれませんが、学生を呼び込む仕掛けをやっていて、どういう仕組みだったか。集中的になにか教育するのか。

(委員)

塾のようなものがないから、専門の人を呼んでそこでやってもらう。

(委員)

2つコースがあって進学校と地域の漁師になるコース。漁師さんもIターンのような人が多くて、税金がかからないのでしたっけ。すごく優遇される。県外からくる漁師さんが隠岐の島にたくさんいて、その人たちもコミュニティみたいなもので活力があるから、学生もそこに行って体験できるみたいなことをしている。

(会長)

なにかしら交通の便とJRだったりを含めて、ここ(泊)を拠点だとどこでも行きやすいので、なにかそういったものが地理的なものを活かして、人が増えればコンビニもお店もできてくるし、良い方のサイクルに回っていかないかと思うんですけど。

(委員)

学生寮とか。

(会長)

簡単に出てくるならもうやっているでしょうから。ちょっとこの人口を増やすから話題を離れて、これは継続して行って色々な案をですね、とんでもないところから話してもらってもいいと思うので、突拍子もないことを言ってもらってもいいと思います。また次の機会にいくとして、次の話題にいきましょう。お年寄りが暮らしていくんですけど、より豊かというか安全というか便利というか暮らしやすい環境になるには、今の状況がどう変わっていけばいいかですけど、さっきあった単純にお買い物できることができればいいでしょうし。今の現状としては独居の方とか買い物に車乗れない人って子どもさんが週末買ってきてあげたりとか、一緒に誰か買い物について行ったりとか、あと来られる方ぐらいしか方法ないですよ。

(委員)

あとは、コープ。

(委員)

高齢者の声としては、移動販売で来られるには品数が少ない、カタログだと物がわからないので、手に取って買いたい。という意見はあります。どこかの町がTVでやっていた時には、タブレットで商品注文して配送するというシステム、高齢者のシステムをつくっているところがあったけれども、タブレットの使い方が（わからない）ということがあったけれども。手に取って物を見て買いたいという人がかなりおられる。

（委員）

そこは、高齢者にとっての生活の質ですもんね。

（委員）

見るのも楽しみ。一番いいのは近所づきあいで買い物に連れて行く。「一緒に連れて行ってあげるわ」という、今地域でもある、やっておられる人はあるみたいですけど地域の中で買い物。病院とかになると時間が長くなるので、送って行ってその時間をどうするかとなつてなかなか近所づきあいの中で難しいと思うんですけど、買い物程度だったら自分も一緒にその日の家の買い物をして乗せて帰ってあげるといようなことができれば、ある程度解決はするのかな。報酬を得なければ、近所づきあいの範疇でいけば、そのあたりはクリアできるじゃないかと。例えば謝礼をもらったりすると、引かかるんでしょうけど。

（会長）

泊ももちろんですけど。小浜とか筒地も条件が悪いというか、本当に不便ですよ。小浜、筒地にも独居の方っていらっしゃるんですかね。

（委員）

おられるでしょう。

（会長）

高齢者の集合住宅みたいなものが、もしあれば子ども側としては、そういうものができれば一番安全かもしれないですけど、高齢者になってご本人たちがそういう環境に行きたがるかどうかというのはね、どうかなということが。

（委員）

今だいぶん経ってしまいましたが、今のつわぶき荘、南側が高齢者生活福祉センター、夫婦部屋が2部屋と個人部屋が4部屋ある。今使っていないですけど。建築当初に募集して入ってもらったんですけど。

（会長）

そこで生活するということですよ。

（委員）

そうです。自立した人が。警備員が24時間いるんですけど、何かあればボタンを押してもらえれば。ワンルームみたいなものです。トイレもミニキッチンも、風呂はデイサービスの風呂が24時間あったりしてというようなものがあったんですけど、いざ入居者を集めてみると、結局継続的に入っておられたのは、1人で。季節的に冬場に筒地の独居の方が季節的に入られるということでほとんど空き状態。なぜかという「住み慣れた家がいい」と言われるんです。「安心なのでこちらに来て住まれませんか」と誘ってもやはり自分の家がい

いと言って出たがらない。今の傾向がどうかはわかりませんが、その当時平成9年、10年あたりでしたか。

(会長)

そういう傾向って強いような気がするけど。まだ近所があったりすれば。

(委員)

サ高住はわりと地元の方は少なくて、よそから入ってくる人が多い。湯梨浜町内の人もおられますけど、数としては少ないですね。都会から来られた人ばかり。

(会長)

では、そういう施設を作ったとしても、そこにみんなが喜んで来るかということと必ずしもそうではないかもしれないということですか。

(委員)

逆に希望されるのは、普段家にいて何かあった時にあずかってもらえるとか、冠婚葬祭とかで同居していて家族がいないときに、一人にしているのが心配なので一時的にでも含めてもらえるところがあれば。ショートステイのニーズが高いのかなと。

(委員)

今、ショートステイはすぐに入れるものですか。老健とか特養とか。

(事務局)

特養は難しいですね。

(委員)

緊急用のショートステイの枠はもっておられるんで。

(委員)

入所は難しいんですけど、特養とかだと。ショートステイだと空きがあったりする。

(委員)

施設によって、空きがあるところもありますし、あらかじめ緊急用に何部屋か余分に空けているところがあるので、緊急対応できる施設もある。

(委員)

さっきも地域包括ケアがでたと思うんですけど、やはり医療・福祉・介護を住み慣れた地域で完結するというのが原則だと思うんですけど、それでも要介護状態で施設に入らなければならなくなった人が、他地域の施設に入らなくても泊にそういう施設があれば、使ってもいいかなというニーズを汲んで、そういうのを造るというのは可能ですか。さっきのところ(つわぶき荘)をそういう形で転用するとか。

(委員)

あらたに施設、老健だとか特養という話は土地の問題もあるので、なかなか泊地域内というのは難しいのではないかなというところがある。話が出ているのは、今の居住部門を使って、通所もありますので、小規模多機能もありますけど。ちょっと問題点もあって小規模多機能って月額いくらなんですよ。デイサービスとかだったら通った回数に応じて利用料を払うんですけど、そのあたりがネックとしてはあるんですけど。24時間365日通所・訪

間・宿泊、それこそ1日2日という短期の宿泊ですけどできる可能性があるので、そういう方向性も検討しているみたいですけど。なかなか実現には、いろいろハードルがあつて。新たなものを建てるというのはまず土地がないので、民間の参入は期待できないなど。それよりも平地の多い羽合とか。選択肢として羽合と泊と2つの選択肢とすると、やはり羽合。温泉もあるところ。わりと高齢の方も温泉を好まれるので、やっぱり東郷のデイサービスにしても、温泉です。

(会長)

そこのつわぶき荘で入居、入所した時というのは、費用というのは年金で賄えるくらいな料金ですか。

(委員)

安かったと思います。およそ20年前。光熱水費は実費。

(委員)

当時は、かなり安かったと記憶しています。

(会長)

たしかに温泉は好まれるかもしれませんが。藤津のところ。一回、老人の居住の施設になったことありましたよね。住んでおられましたよね。

(委員)

養護老人ホームでした。

(会長)

さっき医療・介護と出てきたんですが、今はなんとか医院があるので病院にも行けるのでいいけど、先生もだんだん歳をとってきて、医者がなくなったらお年寄りってなかなか生活しにくくなるんじゃないかと思うんですけどね。

(委員)

でも、国・県・町ともこれからは在宅医療の流れで、地域包括ケアの話から在宅医療、在宅介護。

(会長)

それは、泊の開業医がなくなっても、なにかしらのケアができるようなことを考えていくと。具体的にはどのような形になるんですか。

(委員)

平成30年にむけて。

(委員)

特養に入ると、そうなったら関係ない。地元を好きな人間でも、要介護4とか5になったら(関係なくなる)。

(会長)

生活している人にとってみたら医者がなくなるとね。

(委員)

施設にもう入ってしまわれるような人は、もう関係ないと思うんですが、より住みよいと

か。まだ体が動いて自分で生活できる人が住みやすい町がどうなのかと考えれば、それから先のことはもうあまり考えなくてもいいのかなと思います。泊の人であれば例えば15km、20km通勤で毎日通うのは当たり前なことだと生まれた時からそう思っていると思うんですけど、これが倉吉市内の人からみると、毎日20kmも30kmも通うとなると「へえ」という感じになると思うんです。おじいさんとかおばあさんも多少の不便は当たり前で、それが普通になっていてそんなに不便を感じていないのではないかという気が少ししています。買い物がきちんとできて、ちょっと困ったときに相談してもらえて、多少不自由になっても配食サービスとか、家に訪問介護で3時間来て、そのうち1時間買い物して、1時間洗濯してとかそういうものもありますよね。そのあたりが充実すればいいのかなと思うんですけど。お店が例えば、あって、こちらの方から承継の問題などを切り出して「将来どうしますか」とか、最終的に個人経営から切り離して共同経営にするなどしながら町営にするとかですね、ソフトランディングするとかという形でお店を残して、既存のサービスを充実させれば体が動かせるお年寄りにはそれはそれで楽しく家で暮らせるのではないのかなと思ったりします。

(会長)

ただ医者がなくなるとするのは、やはり致命的かなと、自分で歩いていける範囲に医者がなくなるのは。

(委員)

大きいと思うね。医院さんがなくなるのは。

(会長)

なにか町として例えば、今からそういう話はしていないと思うんですけど、今の流れからいくと、かかりつけ医みたいなものをずっと持っていった方がいいという話があるじゃないですか。そうしたら地域に医療というのは何かしらの形でやはり必要なのだろうなどは思います。明日、3年後に無くなるわけではないけど、将来的に考えるとやはり住民が、お年寄りが行ける範囲にはやはり医療が必要かなとは思っています。店舗のことは、やはりなにかしらの形で残していかなくはいけないかなと思っています。

(委員)

町営にするとか。

(会長)

場所としては、とりあえず役場があったり銀行があったり郵便局が近いエリアではあるので。

(委員)

町営コンビニは作れるんですか。

(委員)

そういうのは期待するんですけどね。町営でなくても、建物は公設で民営。

(事務局)

基本的に自治体は儲けに走れない。

(会長)

JAさん出店されませんかね。

(委員)

直売所みたいな小さなものをそこでやってもらえると。

(委員)

コンビニとかは、まちづくり会社みたいなものを立ち上げて、そこがコンビニのフランチャイズをするようなイメージがあるんですけど、町がそういうようなことができるのかどうか。

(委員)

直営ではできないでしょう。コンビニの本部はロイヤリティが入ればいいので、そこさえ確保できれば、たとえ赤字でも出てくると思う。ロイヤリティを回収しなくてはいけないので、マーケティング調査をして、儲かる・儲からない、出店する・しないというのは判断するんですけど。

(会長)

あとは、昔ながらの生協方式になるのかな。

(委員)

あまり利益、利益ではなくて。そういう必要なものを一通りそろえられる。

(会長)

宇谷にもありましたよね。やはり採算が合わなくなってということですかね。

(委員)

やはり買い物は地元にある商店を利用しない。若い者は安い方へ行ってしまう。1週間分買ってきてしまう。例えば集会所で飲んでいても安い酒を買ってきて飲んで、足りないところを地元の店に買いに行くと、地元いじめではないかと思う。結局自分たちが損するだけ、いざという時に。

(委員)

そうやって地元のお店がなくなって悪循環になってしまう。

(委員)

昔は宇谷の生協も儲かっていた時期もあって、配当もあった。やはり車社会になって車が出るようになったので、赤字になると悪循環ですし、仕入れたものが古くなる、人件費もかかるし、それならいっそのことやめてしまおうかということでやめてしまってますからね。

(委員)

さっきの石脇地区のお店も、高齢者と子どもしかやはり来なかったということで。

(会長)

40年くらい前は泊にもまだたくさんお店があって、それなりに泊の中でお金が回っていたと思うんですけど、やはり車とか大型店のスーパーとかそういったものができてしまって、どうしても価格では勝てないし、これは泊に限らずどこもですからね。個人商店がなかなかなくなってしまった。かといって、赤字を出してまで慈善奉仕でできるものでもないですし

というふうになってしまう。そこをどういう資金手当をするかということになってしまう、やはり買い物がしたいということであれば。もうあとは5分となってしまうんですけど、今日はまだ2回目で、もっともっといろいろと見つめ直して、やはりこうなってしまった原因とか過程とかもあつたりしますので、これを引き続きということで。やはり言いつぱなしでも仕方ないかなと、今の段階では、なかなかまとめる段階ではないので。とりあえず今日はみなさんに同じ意識をもっていただいて、またどこかで良い参考例があれば、情報をいただきながら次の回に進めていきたいと思うんですけど。レジメの中にですね、「視察について」とありますけども、次かその次の回くらいにしましょうか視察も。

## 5. その他 視察について

(事務局)

～資料2に沿って説明～

(会長)

みなさんお調べいただいて、情報を交換して、場所を絞っていきたいと思います。最後になりますが、オブザーバーの方、ご感想なりご意見がもしございましたら。

(オブザーバー)

非常に難しい課題だと思います。今は幅広くご意見を出していただいてだんだんこれを整理していけばいいと思うんですけど、やはり最初の会でもあったと思いますけど、どういった人を対象にやっていくとかかですね。そのあたりをそろそろある程度想定しながらやっていただくと具体が決まってくるのかなと思っております。途中も少し出ましたけれども介護施設に入られている方に対してどうこうということはないわけで、今動ける、もうじきもしかしたら動きにくくなるかなという方が、何に困っておられて、それに対して地域がなにができるのか、こういった観点からの検討もありますし、移住者を増やしていくということもありましたけれども、潮風の丘の話題がみなさんからちょくちょく出てきて、やはり皆さん思いがある施設だと思いますので、あそこが今でも5万人来られるなら、5万人以上を狙って、しかも滞在期間が伸びていく工夫をしていけば、それなりのものが出来てくるのかなと思います。特にレストランがなくなってきているようなので、レストランでちょうど栽培漁業センターもありますし、いろいろ魚が上がってきますから、魚が食べられる場所ができてくればまた、観光客が増えるだろうと思います。いろんな面で皆さんが思ってたしやる問題点とかを整理していった検討が進みますように、我々もできることはお手伝いさせていただきますので、今後ともよろしくお願ひします。

(事務局)

小さな拠点の本来というとな変なんですけど、役場の庁舎とか公民館とかもどうするかという観点も、また入れていただけたらなと思っております。

(会長)

区長さん方から、何かいただければと思います。

(区長)

日程的に年度内にこれは計画を策定するわけ？

(事務局)

まだ正式には決めていないのが正直なところなんですけど、予算の関係もありますし、本当はじっくりと長いスパンでやるのがいいんですけど、ある程度皆さんの意見を聞きながら、それでもって次の時にでもだいたい目安を決めて行こうかと思っております。といいますのが、いろんな補助金などもですね、今はあるけど次はわからないということもあるんですよ。

(会長)

区長さん方は、できればこういった形でずっと入ってもらいたい。一番身近なところなので、ぜひと思いますので。

～今後の進め方を決定～

・次回（第3回）は11月21日（月）18：30から中央公民館泊分館で開催。

(会長)

みなさん、ありがとうございました。